

ポポちゃんの手足が折れた

ゆきや(2023. 02. 05)



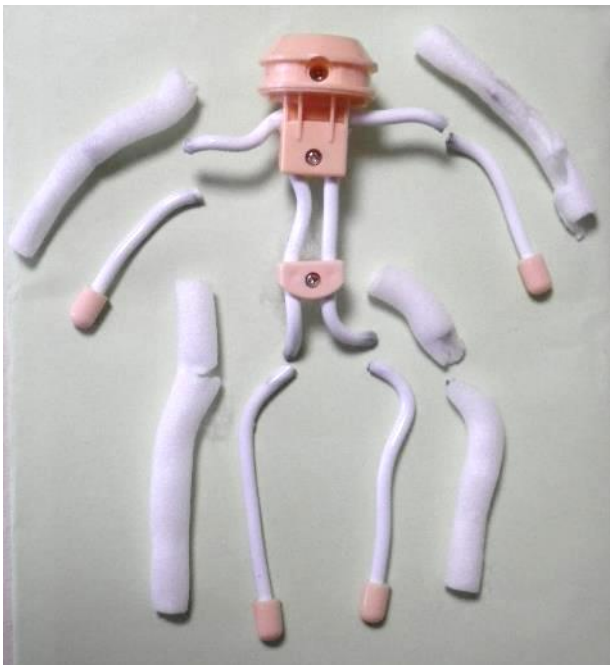
「ポポちゃんが座らなくなった」という依頼がありました。ぬいぐるみの上から触ってみると、手も足も折れて切れているようです。

今回は、目は問題なく動くので、顔に触らないように注意しながら手足の修理にかかります。



背中の中の中央の縫い目を上半分程切開し、首の結束バンドを切って、頭を外します。

首から下の骨組みを抜き出すと、こんな有様でした。



手足のアルミ芯は、曲がりくねって干切れています。それを包むスポンジの筒も、破れたり切れたり、ヨレヨレの感じです。

アルミ芯は、すべて交換が必要です。胴体と腰に当たる部分のタップねじを抜いて、分解します。

手足は直径 3 ミリのアルミ芯線に、厚さ 1 ミリ程のチューブがかぶさっています。

チューブは抜けない場合が多いのですが、今回はドライヤーで温めて軟化させながら、抜くことが出来ました。

手足の先端のキャップはチューブに接着されていたから、付け根をカッターで切って、ねじって外しました。

どちらも、後で使います。



太さ 3 ミリのアルミ芯線は、百均のDIY売り場か、園芸用品売り場で手に入ります。
(園芸では、盆栽の枝の形を整えるのに使われるようです)

両腕を伸ばした長さは 25 cm。
足の長さは腰で折り返す部分も合わせて 40 cm ですから、ポポちゃん一人で、アルミ芯線が 65 cm 必要です。
(思いの外、長いですね)



新しいアルミ芯で、骨組みを左のように復元しました。

チューブは切れ端を寄せ集めて、嵌めました。きつい所は、台所の中性洗剤を一滴入れると、スムーズにはめ込むことが出来ました。チューブが外れず使えない場合、腰と肩を固定する部分(前頁下写真の赤丸印)がゆるく、しっかりしません。ビニールテープを巻くなどして、太くして安定させます。

破れたスポンジの筒を繕って手足にかぶせ、先端にキャップを接着しました。これで、体幹を復元できました。

ぬいぐるみに差し込んで、背中を縫い合わせ、首を結束バンドで止めて、ポポちゃんが生き返りました。こんな風に座ることも出来ます。

